佐渡を世界遺産に

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(17)　山師　秋田権右衛門

慶長期(1596～1615)、20カ所以上稼がれていた鶴子の御直山(幕府直轄の銀山)は、元和期(1615～24)には百枚間歩と仕出喜間歩の2カ所に激減していました。

寛永10(1633)年、出羽の秋田から一人の山師が佐渡に渡ってきました。名前を秋田権右衛門といい、秋田城主の佐竹家に仕えていました。佐竹家は、元々常陸54万5千石余を治め、領内の銀山開発を進めていましたが、関ケ原の戦いで上杉景勝と結び豊臣方に属していたため、秋田20万5千石に移封されました。

しかし、秋田でも院内銀山をはじめ多くの銀山を開発しました。このような背景から、権右衛門の山師としての能力は非常に高かったと考えられます。

相川金銀山に来た権右衛門は、有力な山師に仕えていましたが、のちにその名跡を継ぎ、鶴子銀山のふもとの西野に移りました。そして、この地を拠点として、慶安2(1649)年、仕出喜沢・屏風沢の間歩に煙貫や水貫坑道を掘ることを佐渡奉行所に願い出て、本格的な再開発に着手しました。

その結果、仕出喜間歩で有力な鉱脈を掘り当て、承応元(1652)年から万治元(1658)年にかけて、日々数万両を稼いだと伝えられています。

屏風沢の間歩

お詫びと訂正

11月10日発行「市報さど11月号(№165)」の19ページ(下段15行目)に誤りがありました。お詫びして訂正します。

誤　水田与右衛門
正　水田与左衛門

問 産業観光部世界遺産推進課 ☎63―5136

～地域の魅力をサポートします～

われら地域おこし協力隊

片野尾から佐渡全体に ちょっとした風を願い！

片野尾地区担当　高杉　正哉

私が片野尾に着任してから、もう半年が経ちました。その間、休耕田再生の取り組みを主として、水産物の販路拡大を試みたり、また片野尾の景観を活用した「何か」を考えたりできた時間を過ごさせていただきました。

稲の収穫が終わったこの秋、片野尾で採れる農作物や魚介類と、土地と景観を全部一つにして、しんなりと煮込んで「何か」を作ろうと新たなアイデアが浮かび始め、地域の方々はもちろん、島内の知人にも話しをしたところ、複数の点となってそれぞれの思いが表れ始めています。やがてそれらの点が線で繋がったとき、片野尾から佐渡全体に「ちょっとした風が吹くのかなぁ」などと想像しながら、これからもしんなりと頑張ります。

美しい海岸線の片野尾

問 産業観光部地域振興課
地域振興係　☎63―4152